

鳥羽市での里海事業

三重大学大学院生物資源学研究所附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設水産実験所は小浜町にあり、地域のみならず共にさまざまな研究を推進しています。そのひとつが、環境省事業である「戦略的「令和の里海づくり」基盤構築支援事業」です。

鳥羽市はその全域が伊勢志摩国立公園に含まれており、人と自然が共生しています。このように、人々の生活と自然環境が深く関係しつつもその環境が守られている沿岸海域は「里海」と呼ばれています。鳥羽市は全国で10箇所選定されている里海事業実施地域のひとつで、鳥羽の里海が将来にわたって持続的に維持され

るための仕組みづくりを行っています。具体的には、①里海の基盤となる自然・生物多様性を守るための取り組み、②里海を守る人を育てるための取り組み、③里海を活用した観光に関する取り組みを実施しています。

①では、おもに鳥羽沿岸域に生息する生き物・海藻の種類や数を記録しています。生き物の豊富さ(生物多様性が高いこと)はそれ自体が鳥羽の大きな魅力です。生き物の種類の把握は、磯観察などの海洋教育プログラムや観光プログラムに役立てることができ、毎年記録することによって種類の変化や増減が分かるようになれば、環境の変化にも素早く気づくことができます。

②では、鳥羽をはじめとする全国の小・中学生に向けた海洋教育プログラムの構築と実施を行っています。鳥羽で実施されている組織的な海洋教育の取り組みは全国で見ても先進的です。鳥羽の子どもたちが地元の自然や生き物のことを学び、

大切に思う気持ちが育まれるようなプログラムを作っています。県外から修学旅行や臨海実習に訪れる子どもたちにも海洋教育プログラムを実施することで、鳥羽の魅力に気づいてもらうことも期待しています。

③では、海女文化をテーマにした観光プログラムの開発や、一般旅行者向けの海洋教育プログラムを構築・実施しています。大型観光船の旅客獲得による観光収入増のほか、鳥羽への関係人口の増加を期待しています。

環境省が有識者会議を設置し、「今後の里海づくりのあり方に関する提言」をまとめて公開しています。提言の一つには、「ウェルビーイング/高い生活の質にも貢献」があります。これは、地域の人々が里海から恩恵を受け、豊かな生活を送ることが里海環境の持続に必要だという考え方に基づいています。鳥羽の自然がこれからも豊かであり続けるために三重大学ができることを、今日も考えています。(助教・山本)

鳥羽市が誇る四季折々の「鳥羽さかな」を漁協さんご紹介！

10月

旬の
とば

鳥羽さかな

vol. 22

観光商工課観光係
TEL 25-1157
農林水産課水産係
TEL 25-1167

ブリ



伊勢湾で水揚げされるブリは、三重県を代表する身近な魚の一つです。ブリは成長するにつれて呼び名が変わる「出世魚」として知られています。呼び名や大きさの基準は地域によって異なりますが、一般的には60cm未満のものをイナダ、80cm未満のものをワラサ、それ以上のものをブリと呼びます。成長に合わせて名前が変わることから、昔から縁起のよい魚とされ、お祝いの席などにも用いられてきました。

伊勢湾は木曽三川や宮川など、多くの河川から栄養豊かな水が流れ込む、魚にとっても恵まれた海です。餌となる小魚なども豊富で、ブリが育つのに適した環境が整っています。特に秋から冬にかけては身に脂がのり、刺身・塩焼き・照り焼きなどで、より一層おいしく味わえます。また、脂の少ない時期のものは、揚げ物やムニエルにすることで衣や油の旨味と合わさり、おいしくいただけます。

ブリはおいしいだけでなく、栄養面でも魅力のある魚です。良質なたんぱく質のほか、脂にはEPAやDHAも含まれています。ブリをはじめ、魚を毎日の食事に取り入れることは、バランスのよい食生活にも役立ちます。

伊勢湾の豊かな自然に育まれたブリ。成長によって名前を変える「出世魚」ならではの魅力と旬の味わいを、ぜひ食卓で楽しんでみてはいかがでしょうか。